



上智大学創立 100 周年  
 上智短期大学創立 40 周年  
 上智社会福祉専門学校 50 周年



## 上智大生が植えた真田濠土手の桜

No. 33

### 1. 卒業記念に桜の植樹

春になると花見客が訪れる四ッ谷駅からホテルニューオータニに続くソフィア通り沿いの桜並木。この桜を最初に植えたのは、1959年に上智大学外国語学部英語学科の4年生だった佐竹章夫氏だ。

当時この江戸城外堀沿いの真田濠土手は、松の木があるだけの吹きさらしで、大学から先の土手は背の高いカヤが生い茂っていた。ホテルニューオータニが建設される以前は人通りも少なく、空手部の主将だった佐竹氏は、練習のたびに土手を見て「暗くて殺風景な所」だと感じていた。

主将として空手部を学内最大の運動部に育て上げた佐竹氏は、尊敬できる部の師範に出会い、充実した大学時代を送った。そこで、卒業記念に何かを母校に残したいと考え、真田濠に桜を植えることを決めた。土佐の出身で宴会好きの佐竹氏には、桜の下で花見酒ができるとの思いもあった。

まず土手を管理する千代田区役所に行き、すぐ許可を得た。苗木を空手部員の数と同じ60本植えることに決めたが、問題は資金だった。仕送りは底をついていたので、背広を質に入れてお金を工面した。



1950年頃の真田濠土手(上)  
 土手の中腹に見える成長中の桜、左側は建設中の3号館下、1962年2月2日)



自身で植えた桜の木と佐竹章夫氏(2013年3月22日)

1959年11月のある日曜日、新宿南口の花屋で、一本30円の苗を60本購入した。高さ約1メートル、太さは小指ほどのソメイヨシノの苗木だった。電車賃もなかったので、空手部の下級生5-6人と、重い苗木を抱えたりして大学まで歩いて持ち帰った。そして大学でシャベルを借り、道行く人に折られないよう、土手の中腹に3メートルくらいの間隔で植えた。聖イグナチオ教会から、現在のホテルニュー

オータニ先まで続いた。

佐竹氏は1960年3月に卒業して神田の貿易会社に就職した後も、時々帰宅途中に立ち寄り、苗の成長を見届けた。折られたり、引き抜かれた苗が目立った時には、仕事帰りの夜中、2メートル近く成長した一本一本の苗に「折らないで」という札をつけた。その会社が約2年後に経営危機から人員整理を行い失業。ある日、アルバイトをしながら意気消沈して何気なく大学の近くに歩いてきた時、ふと見上げると自分達の植えた桜の木に花が咲いていた。思わず涙がこみあげ、「がんばらなきゃいかん」と奮い立った。

東京オリンピックを控えた1964年3月、大学に隣接する老舗料亭・福田家の福田彰氏が、土手の上に桜の苗木を植えた。御母堂様の13回忌に、千代田区に苗を100本寄贈したのだという。

オリンピック開幕前月の 9 月にはホテルニューオータニも開業し、眞田濠沿いの人通りも少しずつ増えていった。苗は成長し、四ッ谷駅からホテルニューオータニまで現在のような桜並木になっていった。佐竹氏も別の商社の営業マンとして成功していった。

「大きくなってよかった。ここの桜の木はわが子ですよ。木が成長してからは、家族と毎年桜を見に来ている」と、現在 76 歳（2013 年 3 月）になる佐竹氏は、満開の桜を見ながら語った。「植えてから 20 年後くらいに一回くらい桜の木の下での宴会に参加したが、あまり印象がない。今はじっと花を見る余裕がないほど人がたくさん通るし、青いシートを敷いて宴会をやってる。えーわ、えーわと思って見ている」と、自分たちの植えた桜の下で花見酒を楽しむ人々の姿を喜んでい



眞田濠土手の中腹にある佐竹氏らの桜植樹記念碑

## 2. 全国有数規模の桜並木と創立 100 周年

現在、佐竹氏らの植えた桜は 22 本が健在で、上智大学側に大きく枝を伸ばしている。2003 年から「さくら再生計画」を推進している千代田区によると、眞田濠にはソメイヨシノを中心とする

59 本が健在している。これは紀尾井坂から飯田橋につづく 2.2 キロに約 330 本の桜という「全国的に見ても有数規模のさくら並木」の一部を形成している。「さくら再生計画」では、眞田濠の桜を「横に大きく枝を伸ばしたソメイヨシノが多く素晴らしい」と評している。



眞田濠土手の桜(2013 年 3 月 25 日)

千鳥ヶ淵などの桜の名所を有する千代田区は、「さくら再生計画」のもと、基金を設立して区民のサポーターを動員し、高齢化する桜の保護と再生に努めている。眞田濠の桜もその一環として調査・保護されてお

り、上智大学でもボランティアを募って調査に協力し、桜についての啓発セミナーを開催している。

そして、上智大学は創立 100 周年記念事業の一環として、空手部員の植えた桜の苗木を学内に植えることを決定し、2013 年 2 月には佐竹氏らの植えた桜の木から枝を切り取る「取り木」を行った。採取された枝から育った苗木は、秋に四谷キャンパス内に植えられる。樹齢 50 年以上になる桜に佐竹氏らがこめた母校への思いは、次世代に引き継がれていくことになる。